

(3) 太陽光発電施設の設置

位置

配慮事項

- 隣接する道路や土地などから太陽光発電施設が容易に見えないよう、植栽やフェンスを施すなどの配慮を行う。
- 道路境界部・敷地境界部からできる限り後退して配置するなどの工夫により、民家等への圧迫感や、太陽光の反射などによる周辺景観への影響を軽減するよう配慮する。

基準のねらい

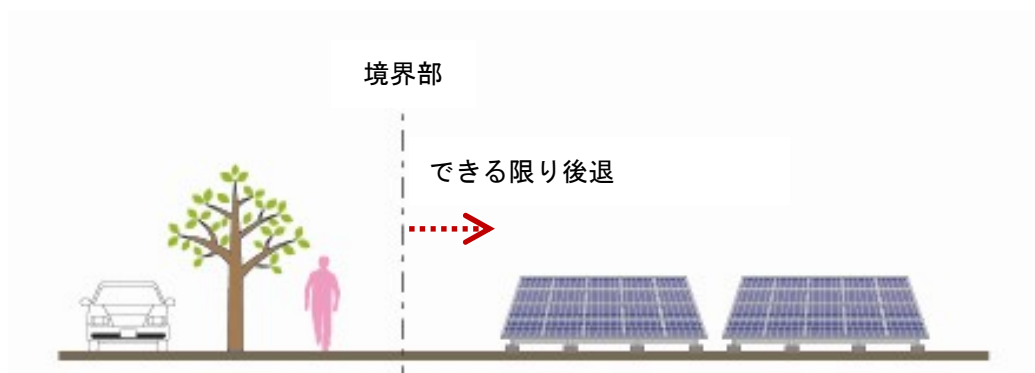
- 敷地内にパネルが立ち並ぶことにより、周辺の景観に対して人工的な印象や無機質な印象を与えることが懸念されます。そのため、歩行者などから容易に見えないような工夫をする必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 周囲からの見え方に配慮するため、人の視線程度の高さを持った植栽帯や目隠しフェンス等を設置し、居住者や歩行者などから容易に見えないよう配慮しましょう。
- 太陽発電施設の位置は、境界部からできるだけ後退し、歩行者などの視線に配慮しましょう。



周囲からの見え方に配慮し、植栽や目隠しフェンスを設置しましょう。



周辺景観への影響を軽減するため、道路境界部・敷地境界部からできるだけ後退させましょう。

配慮事項

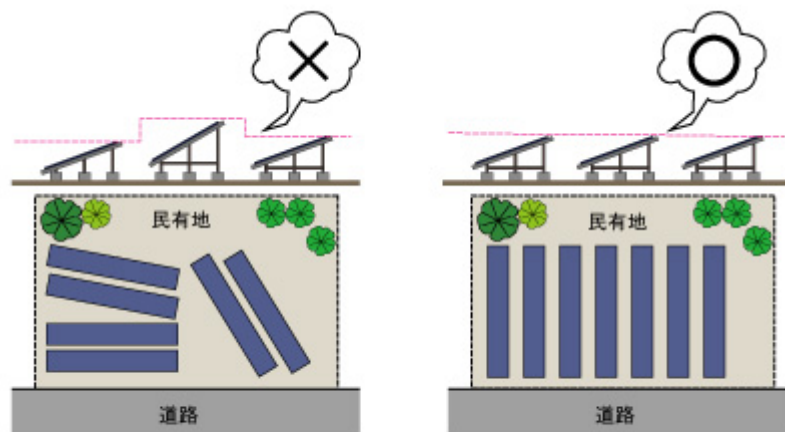
- 周辺集落や道路などからの見え方に配慮し、地形等に応じ、太陽光パネルの向きや傾斜を揃え、統一感のある配置とする。
- 太陽光発電施設の高さは、必要以上に高くならないよう留意するとともに、統一感のある高さとする。

基準のねらい

- 太陽光パネルの高さや向き、傾斜角度などに統一性がないと、雑然とした印象となることが懸念されるため、統一感のある配置とする必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 太陽光パネルの向きは、地形や敷地形状を踏まえて、揃えるよう配慮しましょう。
- 太陽光発電施設の高さは、設置地盤面から 2.0m 以下を基本として、極力高さを揃えるよう配慮しましょう。
- 営農型太陽光発電施設については、パネル下での農作業などに必要な高さ以上のものにならないよう配慮しましょう。
- 太陽光発電施設を他の用途（カーポートなど）と兼用する場合は、その用途に必要な高さ以上にならないよう配慮しましょう。



太陽光パネルの傾斜や向き、高さなどを揃え、統一感のあるものとしましょう。

配慮事項

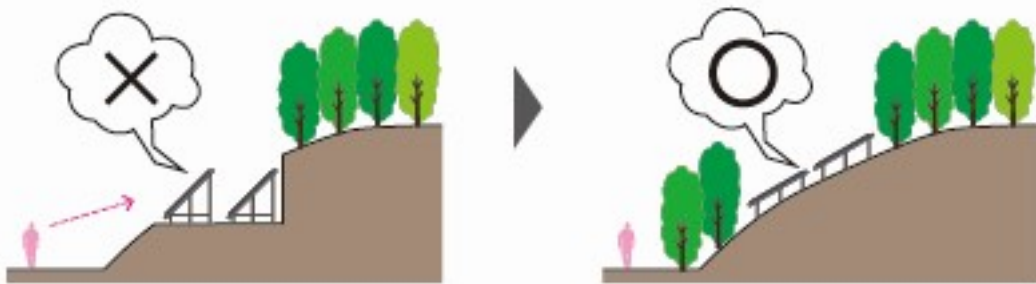
- 山頂や尾根線、稜線等での設置は避ける。やむを得ず設置する場合は、太陽光発電施設が突出しないようにする（土地の形状に違和感を与えない）。

基準のねらい

- 山頂や稜線などに太陽光発電施設が設置されると、太陽光パネル等が周辺から突出した印象となりやすく、周囲の自然景観への影響が懸念されます。そのため、周辺の景観になじむよう配慮する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 自然景観を保全するため、地形等の改変は最小限としましょう。
- 周辺からの視線に配慮するため、現状の地形を生かすことや、見えにくい位置に配置するなどの工夫をしましょう。



地形の改変は最小限に抑え、周辺から視認しづらいよう配慮しましょう。

配慮事項

- 地域の歴史的・文化的景観資源との近接を避け、また、その周辺から望見できないようにする。

基準のねらい

- 歴史的建築物や文化的資源が存在する区域では、太陽光パネル等が周辺の景観となじみにくいことが多くあります。そのため、歴史的・文化的景観資源との近接を避けることや、その周辺から望見されないようにする必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 公共空間などから歴史的・文化的景観資源を望見する際に、太陽光パネル等が目に入らないような位置に設置しましょう。



歴史的・文化的景観資源との近接は避けましょう。

配慮事項

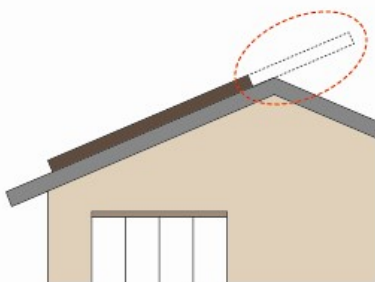
- 勾配屋根に設置する場合には、屋根からの突き出しのないよう設置する。
- 陸屋根に設置する場合には、パネルの最上部をできる限り低くし、目隠し等を行う。

基準のねらい

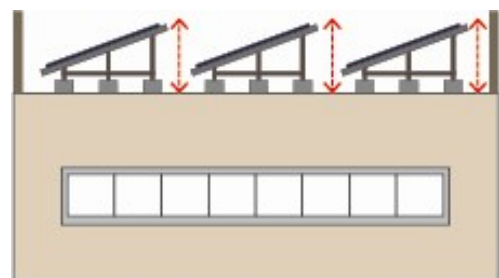
- 建築物の勾配屋根や陸屋根などに設置される太陽光パネル等は、周辺景観や建築物から突出した印象とならないように、建築物と調和した位置や規模とする必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 勾配屋根に設置する場合は、屋根の形状と一体的に見える配置として、屋根から突き出さないように設置しましょう。
- 陸屋根に設置する場合は、周辺から見えにくくするため、太陽光パネルの高さを揃えつつ、最上部をできる限り低くして、目隠し等で囲いましょう。



屋根から突き出しのないように設置しましょう。



目隠し等を設置し、可能な限り低く設置しましょう。

意匠・形態

配慮事項

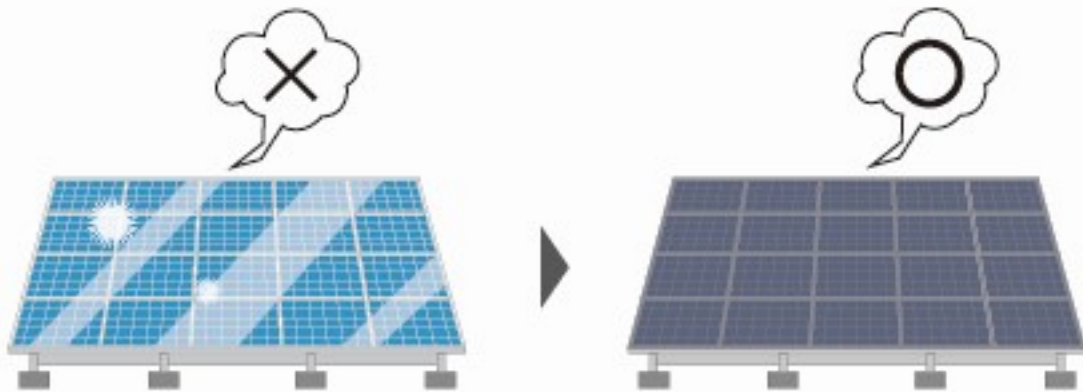
- 太陽光パネルは、低反射性のものを使用する。
- 太陽光パネルは、模様が目立たないものを使用する。

基準のねらい

- 太陽光パネルは、太陽の光などの反射により、周辺から目立つ存在となりやすいため、周辺の景観から突出しないよう配慮する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 太陽の光が反射しにくいものや模様が目立たない太陽光パネルを使用するようにしましょう。



太陽の光が反射せず、パネルの模様が目立たないものを使用しましょう。

付属設備等

配慮事項

- 太陽光発電施設の付属設備（パワーコンディショナー、分電盤、フェンス等）や防草シートの色彩は、周辺の景観と調和した色彩とし、低彩度で統一する。
- 道路境界部・敷地境界部からできる限り後退して配置するなどの工夫により、周辺景観への影響や民家等への圧迫感の軽減に配慮する。

基準のねらい

- 太陽発電施設を設置する際には、太陽光パネルだけでなく、パワーコンディショナーや分電盤、フェンスなどの付属施設も含め、景観へ配慮する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 付属設備自体が周辺から突出しないよう、形状、配置、規模、色彩などに配慮しましょう。
- 色彩については、目立ちにくい低彩度の色彩で統一を図りましょう。
- 配置については、歩行者などの目線に配慮するため、境界部から後退するなど工夫しましょう。



付属設備の色彩は、色数を絞り、低彩度に統一しましょう。

色 彩

配慮事項

- 太陽光パネルは、周辺の景観と調和した色彩とし、黒色もしくは濃紺色、又は低明度・低彩度の目立たないものを使用する。
- 太陽光パネルのフレームは、パネル部分と同色かパネルとの一体性や周辺の景観と調和した色彩（建物の屋根等に設置する場合には、屋根等と一体的に見える色彩）とする。

基準のねらい

- 太陽光パネルには、自然景観や建築物の勾配屋根などと調和せずに、違和感のある景観となりやすいものがあります。そのため、自然景観などと調和しやすい色彩とする必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 周辺の景観から突出させないために、太陽光パネルの色彩は屋根色と統一することや、低明度かつ低彩度のものを採用しましょう。
- また、太陽光パネル自体の色彩だけでなく、太陽光パネルのフレームなどの色彩についても屋根との一体感を得られるよう配慮しましょう。



黒や濃紺などの落ち着いた色彩で、屋根色との一体感があるものを使用しましょう。

緑化等

配慮事項

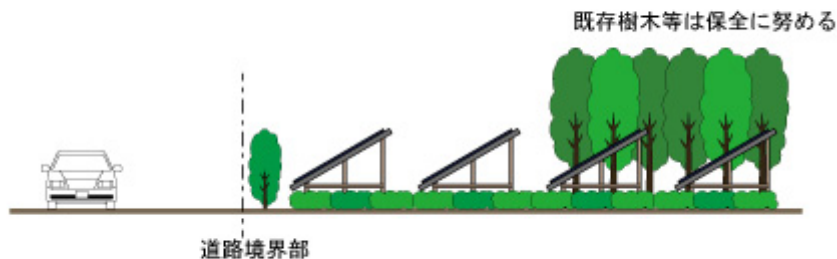
- 樹木の伐採は、最小限となるよう配慮し、既存樹木等の保全に努める。
- 太陽光発電施設の目隠しとなるよう、周辺に植栽を施すなど敷地内緑化に努めるとともに、修景に配慮する。
- 国道・県道などの幹線道路沿いは、植栽帯を設ける。

基準のねらい

- 土地に自立する太陽光発電施設は、敷地面積が大きい傾向があり、周辺の景観に与える影響も大きくなります。そのため、敷地の境界部などに周辺の景観となじむための配慮を行う必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 山頂や尾根線部など自然景観が広がる場所に設置する際は、自然景観に配慮するため、既存樹木の伐採量が最小限となるよう、太陽光発電施設の面積や配置などを工夫しましょう。
- 周辺に与える太陽光発電施設の存在感を軽減するため、国道・県道など（2車線以上ある市道を含む）の幹線道路沿いでは、植栽帯などを設けましょう。



幹線道路沿いには植栽帯を設置するとともに、敷地内の積極的な緑化に努めましょう。